

2025年11月

CWS JAPAN NEWSLETTER NO.110

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます

フィリピン・セブ島 北部沖地震 被災者支援活動報告

こんにちは、五十嵐豪です。

2025年9月30日に起きたフィリピン・セブ島北部沖地震被災者支援についてお届けします。

フィリピン・セブ島北部沖地震による被害について

9月30日夜、フィリピン・セブ島北部沖を震源とするマグニチュード6.9の強い地震が発生しました。震源の深さが5~10キロと非常に浅かったため、セブ島北部を中心とした広い地域で激しい揺れが観測され、住宅や公共施設など多くの建物が倒壊する深刻な被害が出ています。

報道によると、死者はすでに70名以上に達し、負傷者は数百人から千人規模に上っています。倒壊・損壊した家屋は7,000棟を超え、多くの住民が避難を余儀なくされています。教会や学校、病院、道路、橋などにも被害が及び、広範囲で停電や通信障害が続いているいます。

CWS Japanと現地提携団体のCenter for Disaster Preparedness (CDP) は、発災直後から、被災地の情報を収集し、状況の推移をモニタリングしてきました。道路の損壊に加え、10月下旬には台風25号の直撃

もあり、流通網に少なくない影響を及ぼしました。



地震により陥没した生活道路。セブ島北部のサン・レミジオ町にて。©CWS JAPAN

発災から約1か月半が経った現在、食料や基本的な生活必需品は揃いつつありますが、壊れた家屋はほとんどのところで手付かず状態です。全壊を免れた住宅であっても、余震が続いている状況では、倒壊の危険があるため、住民は家に戻ることができません。昼間は家中で片付けや用事をしていても、夜の就寝時は家屋に隣接する敷地や道路にテントやタープを組み合わせた仮設住宅で過ごすという、住民がいまだに多くいます。しかし、タープの生地が薄く、プライバシーが確保できないだけでなく、風雨への耐久性が十分でないものも見受けられます。フィリピンでは12月まで台風シーズンが続きます。



半壊した住宅。とても安心して住める状態ではありません。©CWS JAPAN



一見すると被害がなさそうに見える家屋ですが、手前の壁を手で押すと屋根の部分と接合されておらず、壁全体が前後に大きく揺れてしまします。住民は避難しています。©CWS JAPAN



タープと木材を組み合わせて、住民自身が作った仮設住宅。電灯はありません。©CWS JAPAN

現地提携団体との緊急支援を実施

こうした状況に対し、CWS Japanは皆さまからのご支援とジャパン・プラットフォームからの助成を受けて、風雨への耐久性のある厚みのタープや、夜間の安全を確保し、生活の質を改善するための太陽光発電電灯、給水所での水汲みと保管ができるコンテナからなる支援パックを、被災した約3,500世帯に配付することができました。



配付物を入れるエコバックには現地語で「BANGON SA LINOG（地震から立ちあがろう）」というロゴが入りました。©CWS JAPAN



会場は支援パックを受け取った住民の笑顔で溢れていました。©CWS JAPAN



住民登録の確認や受渡の記録、待機する人々の整理など、大きな混乱なく実施できたのは、住民ボランティアによる貢献が非常に大きかったです。©CWS JAPAN



5日間にわたって配付を行ったが、一番大きな会場では、一度に1,200世帯に対する配付を行いました。ここでも住民ボランティアの活躍は大きかったです。 ©CWS JAPAN

支援パックを受け取った住民からは、感謝と喜びの声を聞くことができました。中には日本語で「ありがとうございます。頑張ります。」と言ってくださる方もいました。また、受け取った電灯について「これで夜も勉強ができるし、怖くない。」という意見もいただきました。学校はいまだ地震以降閉鎖したままで、子どもは週に1度だけ登校して宿題をもらってきて自宅学習を続けている状態です。電灯があることで夜も勉強ができるようになりました。

いまだ続く余震の揺れやわずかな物音で起きてしまい十分な睡眠が取れないという住民が多くいます。今回の支援はそうした住民が夜を安心して過ごし、安全な生活を取り戻すための一助になったと期待しています。

今後に向けて

CWS Japanは、変化する現地のニーズにできるだけ柔軟に対応して、誰ひとり取り残すことなく、ひとりでも多くの人が安心・安全に尊厳ある生活を回復するための支援を模索していきます。そのためにも、皆さまからの温かいご寄付とご声援を重ねてお願いいたします。

引き続き皆さまからの温かいご支援をお願いいたします。

今回のみ寄付をする / 継続的な寄付をする

※CWS Japanに対する寄付は税控除の対象になります

(文：ディレクター 五十嵐豪)

さまざまなSNSで情報をお届けしています

CWS Japanでは各種SNSで、日ごろから情報をお届けしています。お好きな方法で最新情報をぜひチェックしてみてください



各種SNSは
ここをクリックor
QRコード読み込み

認定NPO法人CWS Japan @Japan_CWS · 11月28日
<「防災とまちの歴史を学ぶまち歩き」を開催 | 11月のコミュニティ・カフェ@大久保>
こんにちは、CWS Japanの五十嵐豪美です。
11月は防災とまちの歴史について学ぶまち歩き企画を2本開催しました。今月も @commucafe2023 のレポート記事をお届けします。



⟨ cws_japan

認定NPO法人 CWS Japan
700 投稿 1,252 フォロワー 2,082 フォロー中

CWS Japanは国内外で災害対応・防災支援をするNPOです。2011年の東日本大地震を機に、日本での活動を開始しました。災害時に支援の手が届かず取り残される人々を... 続きを読む

linktree.ee/cwsj

⑥ cws_japan

フィリピン地震緊急支援へのご協力のお願い パキスタン洪水緊急支援へのご協力のお願い アフガニスタン地震緊急支援へのご協力のお願い

設定

CWSJapan

CWS Japanは国内外で災害対応・防災支援をするNPOです
2011年の東日本大震災を機に、日本での活動を開始しました。
毎週金曜日に団体の活動や職員の想いを載せた記事を配信しています。

年次報告書 2024-2025が 完成しました！

皆さまこんにちは、コミュニケーション担当の高橋です。いつもCWS Japanの活動にご関心をお寄せいただき、誠にありがとうございます。

この度、2024年7月～2025年6月に取り組んだ活動をまとめた「年次報告書2024-2025」が完成いたしましたので、皆さんにお届けします。

復興からの希望が見える1枚を表紙に
今年の表紙は、2022年の洪水で大きな被害を受けたパキスタン・シンド州の農村地帯で撮影した写真を選びました。



2024.7.1 - 2025.6.30

ANNUAL REPORT 2024-2025

We want to connect the world,
even if it's just for one person.



CWS Japanの支援により、この地域には灌漑用水路が建設されました。これにより、綿花などの農業の再開が可能となり、さらに将来の洪水や干ばつに備えて適切な水管理ができるようになっています。この表紙

は、被災からの復興と、未来への希望を象徴しています。

アフガニスタンでの事業を ピックアップした特集記事

今回の報告書では、アフガニスタンでの事業を特集記事としてピックアップしました。現地の厳しい状況の中で、CWS Japanがどのような支援を展開し、それが人々の生活にどのような変化をもたらしているのかを詳細にご紹介しています。ぜひご一読ください。



報告書はオンラインにて閲覧可能です
今年次報告書はCWS Japanの公式サイトより閲覧、ダウンロードいただけます。ぜひご覧いただければと思います。

▼年次報告書の閲覧は下記から
[年次報告書 - CWS JAPAN](#)

皆さまからの温かいご支援とご理解があってこそ、私たちは世界各地で活動を継続することができます。この報告書を通じて、皆さまの支援がもたらした確かな一步を感じただければ幸いです。

今後とも、CWS Japanの活動へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(文：コミュニケーション担当 高橋)

アジア太平洋地域の 人道支援の未来を ともに考える

REGIONAL HUMANITARIAN PARTNERSHIP WEEK 2025

バンコク開催

こんにちは、小美野です。CWS JapanはADRRN (Asian Disaster Reduction and Response Network) の理事団体ですが、2025年12月8日～10日にタイ・バンコクで開催される「Regional Humanitarian Partnership Week (RHPW) Asia Pacific 2025」の実行委員会の一員として準備を行っています。ようやくRHPWの第一弾スケジュールが確定しましたので、共有させていただきます。

変化する世界における人道支援の再構築

今年のRHPWのテーマは「変化する世界の人道主義の再構築」です。気候変動の激化、地政学的緊張の高まり、そして従来の資金調達モデルの限界が明らかになる中、アジア太平洋地域は人道支援システムの根本的な変革の最前線に立っています。本イベントは、ADRRN、ICVA、Community World Service Asia、国連OCHAの共催により、40か国以上から400名以上の人道支援実務者が集い、ベストプラクティスの共有と新たなパートナーシップの構築を目指します。

▶プログラム・スケジュールはこちら

また、RHPWの5つの重要なサブテーマとして以下を設定しています：

1. 権力の再配分 - 危機影響下のコミュニティへの意思決定権の移譲
2. 気候・開発・人道のネクサス - 気候適応と人道支援の統合的アプローチ

3. 革新的な資金調達 - 持続可能な地域主導の人道支援のための新たな資金メカニズム

4. テクノロジーとデジタル変革 - AIやデジタル技術による支援の効率化と倫理的活用

5. 紛争配慮型プログラミング - 複雑化する政治環境での人道支援

注目のセッション・ハイライト

全75のセッションが行われる予定ですが、CWS JapanもTechnical Working Group Anticipatory Action IndonesiaやJCC-DRRの仲間達と、「早期警報から早期行動へ：インドネシアと日本における予期的行動のローカライゼーション」というセッションに参画します。このセッションでは、インドネシアで広まる予期的早期減災行動と、日本のコミュニティレベルの防災計画・個別避難支援の事例を通じて、地域主導の予期的早期減災行動を強化する方法を探求します。

また、Japan Platformが、2011年東日本大震災と福島第一原発事故から10年以上にわたる支援経験をもとに開発した「原子力災害における人道支援ガイドライン」も紹介する予定です。このガイドラインを通じて、将来の原子力・放射線緊急事態に備えた実践的な知見を広くアジアに共有して参ります。

その他にも、CWS JapanがADRRNのイノベーションハブとして取り組んでいる、コミュニティ主導のイノベーションプロジェクトのセッション「コミュニティ主導の力：意思決定と資源配分の再構築」も開催予定です。

アジア太平洋地域の革新的な取り組み

RHPWではアジア太平洋地域の様々なベストプラクティスの共有も行われる予定です。例えば、インドネシアのローカライゼーションについて、従来の国連主導から現地CSO（市民社会組織）主導への歴史的な人道調整の移管についての実践例。バングラデシュ・コックスバザールにおける気候適応、人道支援、開発の統合アプローチ。気候と安全保障のリスクが高まる中での適応的な人道支援モデルの探求。アフガニスタン、バングラデシュ、インド、パキスタン、フィリピンの「ネットワー

クのネットワーク」による地域連携モデル、など。今回、新たな試みとして「人道ストーリーサークル」というものも実施します。これは、被災コミュニティの生の声を通じて、レジリエンス、イノベーション、リーダーシップの物語を共有する場所で、世代を超えた対話やビデオなどのマルチメディアプレゼンテーションを通じて、人道支援の影響と教訓を記録・共有します。

RHPW参加報告会も開催します

12月17日（水）にHAPIC2025・NGO2030主催セッションとして、「人道支援のあり方を考え直す～アジア太平洋地域 人道支援パートナーシップ・ウィークの参加報告から～」も実施し、RHPWに参加した日本のNGO関係者が、現地での議論や最新の動向、日本のNGOへの示唆について報告する予定です。以下、詳細です。

日時：2025年12月17日（水）18:00-19:30

実施方法：オンライン

対象：NGO関係者、政府・行政機関関係者、企業関係者、学生・研究者、その他社会課題に関心のある方

参加申込：

<https://forms.gle/6jLM1ajxo6BXKg8V7>

主催：JANIC事務局 / NGO2030 (JANICワーキング・グループ)

発表者（予定）：

・小美野 剛 (CWS Japan 事務局長、ADRRN 理事長)

・野際 紗綾子 (難民を助ける会 AAR Japan 支援事業部マネージャー 兼 アドボカシーマネージャー)

・遠藤 晴美 (創価学会インターナショナル SGI 人道問題担当)

・五十嵐 豪 (CWS Japan ディレクター)
事務局長：小美野剛

12月はイベントが目白押しですが、人道支援セクターのあるべき未来に向けてたくさん有意義な議論をしていきたいと思います。皆さまのご参加をお待ちしております。

(文：事務局長 小美野剛)

「防災とまちの歴史を学ぶまち歩き」を開催 11月のコミュニティ・カフェ@大久保

皆さん、こんにちは！CWS Japanの五十嵐
望美です。

11月は防災とまちの歴史について学ぶまち歩き企画を2本開催しました。今月もコミュニティ・カフェ@大久保のレポート記事をお届けします。

留学生と一緒に防災について学ぶ 大久保多文化共生まち歩き

11月5日（水）のカフェでは、今年度2回目となる大久保多文化防災まち歩きを百人町の日本語学校「友国際文化学院」との共催により開催しました。



今回は中国・ネパール・モンゴル・ベトナム・ミャンマーからの留学生19名の参加があり、2グループ・2コースに分かれて、大久保・百人町を約1時間かけて歩きました。



今回は大久保北公園や戸山公園・戸山小学校や百人町を歩きました ©CWS JAPAN

学生達の中には地震がない国からの出身者や最近地震を経験したばかりというミャンマー人学生も含まれていました。今年4月や10月に来日したばかりの学生達にとって、日本の災害対応の仕組みを知るのは初めての経験でした。



最近では見かけなくなっている電話ボックスも災害時には使えることを伝えたところ、使い方を試してみる場面も！ ©CWS JAPAN

今回も実際に地域内の各避難場所・避難所を確認しながら、帰宅困難者一時滞在施設になる北新宿にある教会を見学させていただきました。



最後は教会で合流して、災害時に帰れなくなった時に避難場所として過ごせることを教えていただきました©CWS JAPAN

「大規模災害発生時にはここに避難すれば良い」

「その時には若い学生の皆さんには協力して欲しい」と教会の方々からお話をうかがいました。

最後には最終目的地である学校にて、各学生から日本語によるふり返りが行われ、

「自分達の出身国では日本のように将来の災害のことを考えて備えなど行っていない」という声や「自分の国の政府にももっと防災について考えてもらえたなら良いのに・・・」と涙ぐむミャンマー人留学生の切実な発言もありました。



ひとりずつ日本語で感想を話してもらいました
©CWS JAPAN

ディープなまちの歴史を学ぶまち歩き

今年7月に開催したレクチャー『もうひとつのコリアンタウン』に続き、再び高麗博物館との協働により、『大久保・歌舞伎町まち歩き』を開催しました。

高麗博物館の3人のガイドの皆さんと一緒に歩く「もうひとつの大久保と歌舞伎町」は江戸時代から現在にいたるまでの歴史について知る人ぞ知るディープなツアーとなりました。



かつてオモニ（朝鮮の女性たち）がもやし栽培していたという場所でお話を聞きました©CWS JAPAN

都内で最も外国人口が多い新宿区で最も多国籍な大久保は実は戦前から既に多文化が共生する町であったことを学びました。目まぐるしく店が入れ替わる通りから脇道に入れば、昔からそこにあるだらう神社やお寺、巨大な昭和の純喫茶「王城ビル」に圧倒されました。



近くに劇場があったため、美空ひばりさんなど芸能人もこの喫茶店をよく利用していたとのことです ©CWS JAPAN

世界中から観光客を迎える、若者が集まる新宿の街ですが、こんなにも歴史があり、表情があり、物語があることを知っていますます愛着を感じる時間でした！

12月のカフェ企画のお知らせ

12月のカフェは、通常通り、第1・3水曜日にオープンします。

※12月17日は、日本語学校生対象のまち歩き企画のため、一般の方はご参加いただけませんので、ご了承下さい

12月第1週目のカフェでは、『クリスマス歌声カフェ』を開催します。

今年はクリスマソングの演奏のほかにも、絵本のおはなし会「こと葉」による読み聞かせと、新宿区福祉作業所の利用者さんによる等身大アート展も行います！

「多様性」がテーマの歌声カフェ、ぜひお越し下さい。
寒い日が続きますが、お近くにいらした際はぜひお立ち寄りください。



コミュニティ・カフェ@大久保の各種SNSは
こちら。
[Facebook](#) / [Instagram](#) / [X\(旧Twitter\)](#)

(文：プロジェクト・オフィサー
五十嵐望美)

特定非営利活動法人CWS Japan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：
public@cwsjapan.jp
電話：
03-6457-6840

